

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成20年3月21日(2008.3.21)

【公表番号】特表2007-532976(P2007-532976A)

【公表日】平成19年11月15日(2007.11.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-044

【出願番号】特願2007-508394(P2007-508394)

【国際特許分類】

G 03 C 1/498 (2006.01)

G 03 C 1/74 (2006.01)

G 03 C 1/76 (2006.01)

G 03 C 5/08 (2006.01)

【F I】

G 03 C 1/498

G 03 C 1/498 5 0 1

G 03 C 1/74 3 5 1

G 03 C 1/76 3 5 1

G 03 C 5/08 3 5 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月29日(2008.1.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持体を含み、そして親水性ポリマー・バインダー又は水分散性ポリマー・ラテックス・バインダー、及び反応するように組み合わされた：

a. 非感光性の被還元性銀イオン源、及び

b. 前記被還元性銀イオン源のための還元剤

を含む少なくとも1つの熱現像可能な画像形成層を有する熱現像可能な材料であって、

前記非感光性の被還元性銀イオン源が主にイミノ基を含有する窒素含有複素環式化合物の銀塩から成るロッド形粒子を含み、前記ロッド形粒子が少なくとも3:1の平均アスペクト比を有し、そして粒径幅指数が1.25以下である、

熱現像可能な材料。

【請求項2】

前記ロッド形粒子の、直径が0.1 μm以下であり、長さが1 μm未満であり、そしてアスペクト比が3~10である、請求項1に記載の材料。

【請求項3】

フォトサーモグラフィ材料であり、そして感光性ハロゲン化銀をさらに含む、請求項1又は2に記載の材料。

【請求項4】

前記支持体の両側に、1つ又は2つ以上の、同じか又は異なる熱現像可能な画像形成層を含む、請求項1~3のいずれか一項に記載の材料。

【請求項5】

(A) フォトサーモグラフィ材料である請求項1~4のいずれか一項に記載の材料に像様露光を施すことにより、潜像を形成し、

(B) 同時に又は続いて、前記露光済フォトサー モグラフィ材料を加熱することにより、前記潜像を現像して可視像にすることを含んで成る可視像形成方法。

【請求項 6】

イミノ基を含有する窒素含有複素環式化合物の銀塩から成る粒子の製造方法であって：

- A) イミノ基を含有する窒素含有複素環式化合物の水溶液Aを調製し、
- B) 硝酸銀の水溶液Bを調製し、そして
- C) pH 7.5~10の親水性ポリマー・バインダー又は水分散性ポリマー・ラテックス・バインダーの水性分散体を含有する反応容器に、前記水溶液A及びBを同時に添加することを含み、

前記水溶液A及びBの前記同時の添加が、前記反応容器内の30~75 の一定の温度、一定のpH、及び-50 mV以上の一定のvAgを維持しつつ、最大240分間にわたって、それぞれ一定の流量A₁及びB₁で行われ、

これにより、前記反応容器内に、前記親水性ポリマー・バインダー又は前記水分散性ポリマー・ラテックス・バインダーと、イミノ基を含有する前記窒素含有複素環式化合物の銀塩から成るロッド形粒子との有機銀塩分散体を調製し、

前記粒子の平均アスペクト比が最小3:1であり、そして粒径幅指数が1.25以下であり、また、前記親水性ポリマー・バインダー又は前記水分散性ポリマー・ラテックス・バインダーが、前記有機銀塩分散体中に2~10重量%の量で存在する、粒子の製造方法。

【請求項 7】

親水性ポリマー・バインダー又は水分散性ポリマー・ラテックス・バインダーと、イミノ基を含有する窒素含有複素環式化合物の非感光性銀塩から成るロッド形粒子との有機銀塩分散体であって、前記粒子の平均アスペクト比が最小3:1であり、そして粒径幅指数が1.25以下であり、また、前記親水性ポリマー・バインダー又は前記水分散性ポリマー・ラテックス・バインダーが、前記有機銀塩分散体中に2~10重量%の量で存在する、有機銀塩分散体。

【請求項 8】

イミノ基を含有する窒素含有複素環式化合物の非感光性銀塩であって、前記銀塩が、平均アスペクト比最小3:1、粒径幅指数1.25以下、直径0.1 μm以下、及び長さ1 μm未満であるロッド形粒子の形態を成している、非感光性銀塩。